

【概要】

薬剤学関連の基礎理論としての物理化学的な性質と、製剤化への応用について理解する。

薬物を医薬品として用いる場合、その薬物をそのまま用いることはほとんどなく、その薬物の効果を最大限に発揮し、また副作用を防止、軽減させるために製剤化が必要になる。薬物を安全かつ有効に用いるには、薬物本体や添加物の物理化学的性質の理解が必要となる。この講義では、錠剤や顆粒剤、液剤などの製剤の特性とその製造方法、医薬品の製造に用いる粉体の特性とその評価方法、物質の溶解について、医薬品とその製剤を理解するための基礎理論を修得する。

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による。